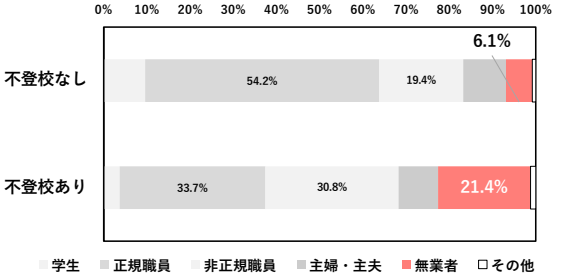
# 不登校にで分かっていること、できそうなこと

1. 事例を考える
2. 不登校のこと
3. できることは？

# 当人

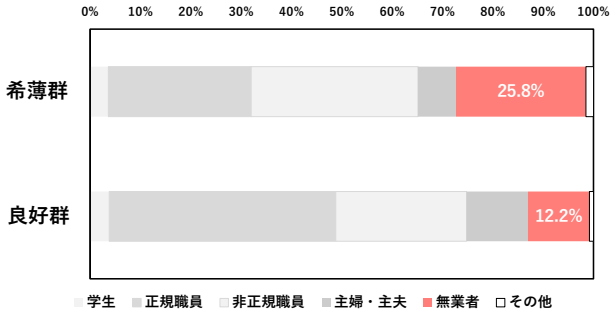
図1　20代後半（25～29歳, N=3,309）の就業形態（加藤, 2020）




☞ 不登校経験者のほうが不利！？



図2　親・親族との関係と就業形態（N=175）

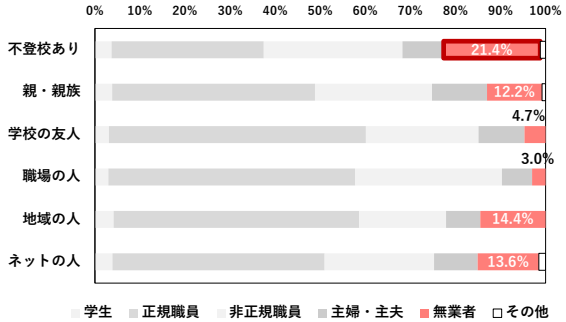



**関係性をたずねる項目**
- 会話やメール等をよくしている
- 何でも悩みを相談できる人がいる
- 楽しく話せるときがある
- 困ったときは助けてくれる　他

☞ 家族関係の維持が無業率の低下と関連



図3　対人関係の良好さと無業率の関係

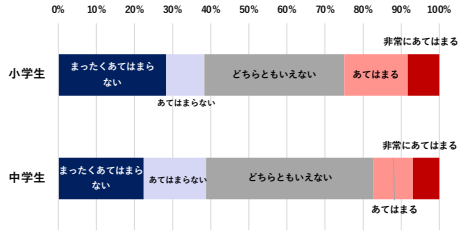



**関係性をたずねる項目**
- 会話やメール等をよくしている
- 何でも悩みを相談できる人がいる
- 楽しく話せるときがある
- 困ったときは助けてくれる　他

☞ 対人関係の維持がポイント

# では、どうやって対人関係を維持するか？

図7　先生が家に来てくれるとうれしい



# どういうときに、先生と会おうと思うか？

| 小学生 | |
|---|---|
| **学校の先生は、よく連絡をしてくれる** | **.430**** |
| **学校の先生が家に来たときの様子や話したことを、保護者から聞いている** | **.405**** |
| **学校の先生は、よく家に来てくれる** | **.400**** |
| 学校の先生は、必ず連絡してから家に来る | .385** |
| 学校の先生は、私の気持ちをわかってくれた | .352** |

**小学生は頻度が大事？**

| 中学生 | |
|---|---|
| **学校の先生は、必ず連絡してから家に来る** | **.540**** |
| オンラインによる遠隔授業があったら参加ししたいと思う | .365** |
| 学校の先生が家に来たときの様子や話したことを、保護者から聞いている | .318** |
| 学校の先生は、よく連絡をしてくれる | .278** |
| 学校の先生は、よく家に来てくれる | .262** |

**中学生はアポ取りが特に重要**

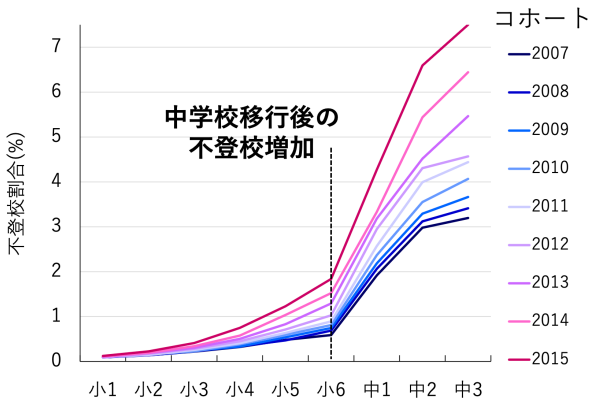
# なる前の問題

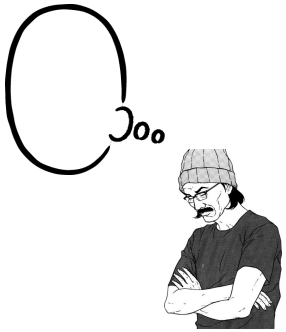
**登校回避動機モデル**

☞ **学校環境の整備**

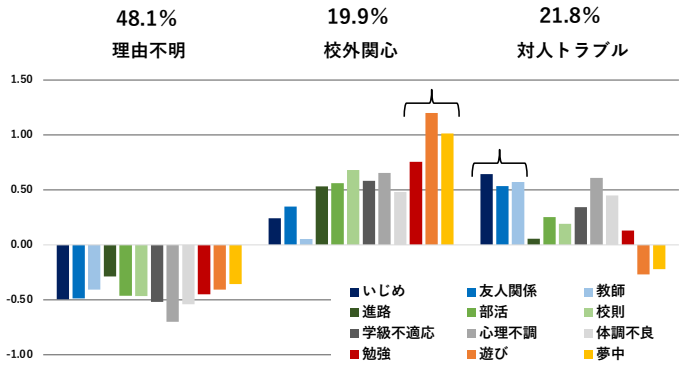
**ハードル低下モデル**

# なる前の問題



# タイプ




理由による不登校のタイプ分類（子ども）*N*=211

# 適応の要因

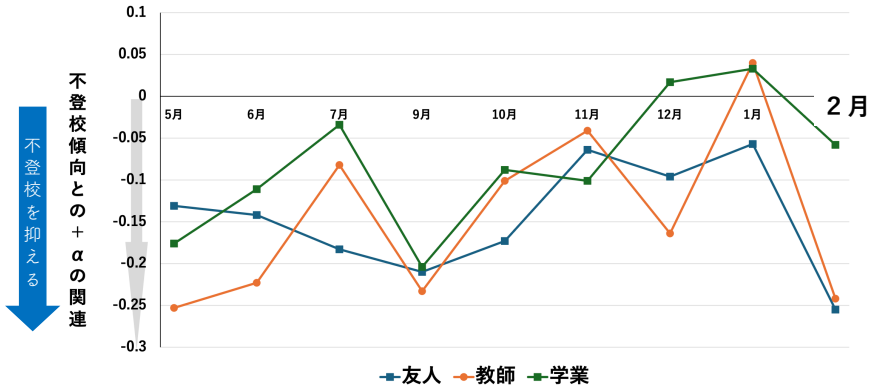
教師との関係

ともだち

べんきょう

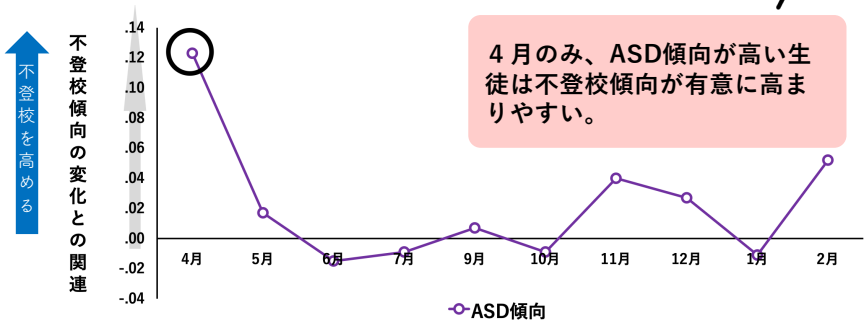
学校生活が楽しいと思える要因って？

# ボーナス



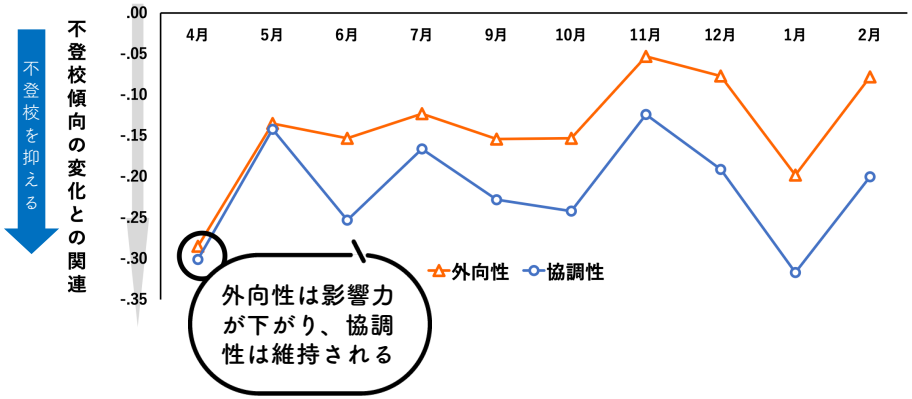

# ASD傾向

安定した環境の提供が鍵？




4月のみ、ASD傾向が高い生徒は不登校傾向が有意に高まりやすい。

# 性格特性



# 不登校は誰の問題か？

# 家族の問題

## 誰の問題か？

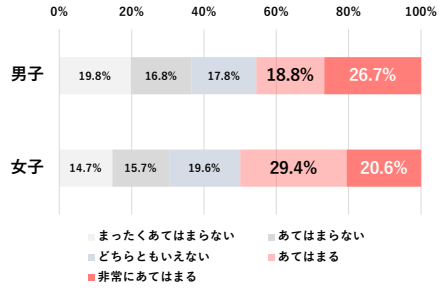



図 4　働き方を変える必要があった

N=211

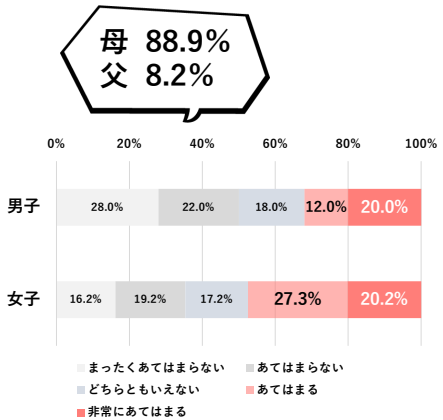



図 5　仕事の時間を少なくした



# 社会の問題

日本は・・・・

「問題行動ができないから、
問題行動が起きる」

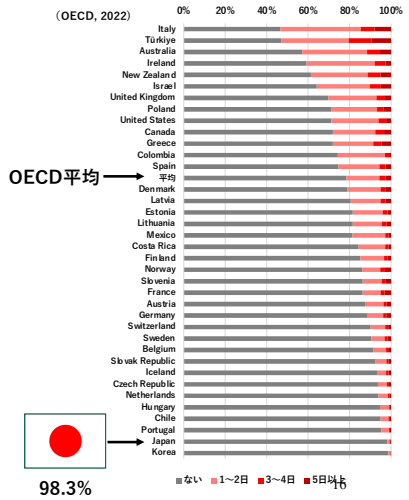
「欠席しないから、
不登校が増える」

休まないのが良いことなのか？
（保坂, 2024）

休み休み通える学校はダメか？

図 6　ここ2週間で無断欠席した生徒の割合

（OECD, 2022）



# 移行期

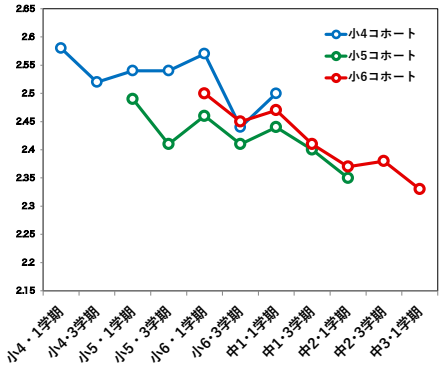


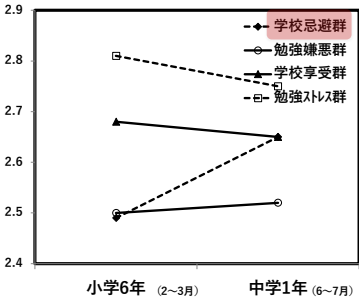

図７ 自尊心に関するコホート研究
（都筑, 2005）

【個人差】小学校時
だった群に顕著

| | 生活 | 勉強 |
|---|---|---|
| 学校忌避群 | × | × |
| 勉強嫌悪群 | ○ | × |
| 学校享受群 | ○ | ○ |
| 勉強ストレス群 | × | ○ |

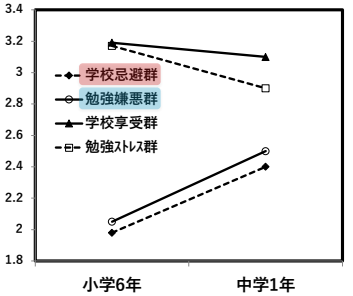
# 個人差

都筑（2008）



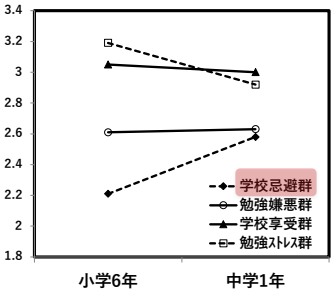

「将来の渇望」

「自分なりの目標が欲しい」
「自分の将来計画をもちたい」

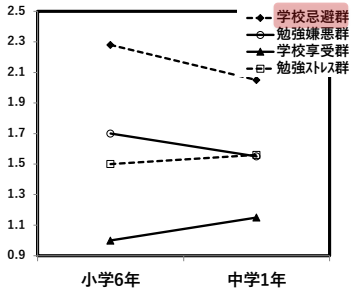



「授業の楽しさ」

# 個人差




「勉強がわかる」




「学校へ行きたくない」

小学時に　　だった群に
な変化が起きる時期

ただし、教師から
は見えにくい

# まとめ

1. 教師との関係は、学校適応の鍵
   ☞ ４月、９月、２月に、３度のチャンスがありそう
2. 不登校はジェンダー問題でもある
   ☞ 発達障碍・貧困も似たような傾向あり
3. 中１はやり直しのチャンスでもある
   ☞ 不登校は難しいが、やれることはまだありそう